

令和5年度 学校評価に係るアンケート結果 (下半期)

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
 B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C: 肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)					評定平均	概要・課題	◆改善策							
							4	3	2	1											
学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	確かな学力の定着と向上	1	保護者	お子さんは、学習の基礎・基本が身に付き、考える力が高まっている。	A	82%	23%	59%	17%	1%	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、基礎基本の定着や考える力の育成に課題があると感じている方が18%いる。 また、授業があまり分からないと答えている児童もいることから、「分かる」「できる」ことを実感させることができるよう授業改善していく必要がある。 学び合いについては、教職員の意識は、上半期より向上したものの、児童には、あまり大きな変容が見られない。改善して取り組んでいることが、児童の実感として表れるよう継続した取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教師は「授業改善のための10のチェックリスト」を定期的に活用し授業の振り返りを行うことで授業改善に生かす。児童には「えひめの学びの振り返り10のチェックリスト」をラミネートしたものを配付し、いつでも活用することができるようにする。また、EILSを活用して「えひめの学びの振り返り10のチェックリスト」を実施し、その結果を考察することで、「分かる」「考える」「のびる」授業となるよう、更なる日々の授業改善を行う。 ◆学び合いの視点や目的を明確にした「あいあいタイム」となるよう、「あいあいタイム」カードの活用や板書を工夫した取組を継続して行い、主体性や思考力を伸ばしていく。 								
			教職員	授業では、めあての提示や振り返りを行い、一人一人によく分かる学習指導を行っている。			100%	53%	47%	0%	0%			3.5							
			児童	あなたは、授業の内容がよく分かりますか。			97%	59%	38%	3%	0%			3.6							
		2	保護者		A	95%	53%	42%	5%	0%	3.5										
			教職員	授業では、対話や学び合いを日常化し、主体性や自ら考える力を高めようとしている。																	
			児童	あなたは、進んで互いの考えを伝え合ったり聴き合ったりして、友達と学び合いながら学習に取り組んでいますか。																	
学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等効果的にICTを活用している。	3	保護者	学校は、タブレットなどのICT機器を積極的に活用し、よく分かる授業を行っている。	A	95%	34%	61%	5%	0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、教職員、児童共に肯定的な評価となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆引き続き、本校としてのアナログとデジタルのベストミックスを目指し研修を重ねるとともに、朝学習や授業で週2・3回はタブレットを効果的に活用した授業を行っている。 									
		教職員	授業等では、タブレット等のICT機器を効果的に活用し、リテラシーと学力の向上を図っている。										100%	38%	62%	0%	0%	3.4			
		児童	あなたは、タブレットを使うことで、学習がよく分かり楽しくなりましたか。																92%	66%	26%
学校は児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	豊かな学力の育成	4	保護者	お子さんは、自分から進んで家庭学習や読書に取り組んでいる。	B	56%	16%	40%	35%	9%	2.6	<ul style="list-style-type: none"> 教職員と児童・保護者の意識に差がある。家庭学習や読書に取り組んではいないものの、自発的な取組にはなっていない点に課題があると考える。また、教職員の学習指導は授業中心であり、児童の家庭学習に向かう態度に対する意識が薄いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業においては、適切な評価問題を行ったり、一言日記を書かせたりして、定着状況を確認し指導に生かす。 ◆自主学習への取組み方の充実を図る。(めあてと振り返りの記入、自主学習カードの利用) ◆みきゃん通帳を活用し、読書活動の啓発を行う。 ◆図書委員会や図書館支援員と連携し、読書週間に合わせた行事を行う。(多読賞児童の紹介、読書クイズや読み聞かせ、親子読書の薦め等) ◆引き続き「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の取組み方について保護者に知らせる。 								
			教職員	学校は、学力調査や評価テスト等の結果に基づき、個人や学級の課題を把握し、指導の改善を図っている。			100%	35%	65%	0%	0%			3.4							
			児童	あなたは、自分の課題を改善しようと、進んで家庭学習や読書に取り組んでいますか。											85%	46%	39%	12%	3%	3.3	
		5	保護者	お子さんは、自分の体力に関心をもち、学校や家庭で、進んで体を動かし、体力を高めようとしている。	B	70%	30%	40%	27%	3%	3.0			<ul style="list-style-type: none"> 自分の体力に関心をもち、進んで体を動かすことに対して、教職員と児童・保護者の意識に差がある。学校における体育科の授業や体育的行事に進んで取り組めていなかったり、家庭において進んでまとまった運動に取り組めていなかったりすることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆縄跳び検定やITスタジアムに1学期から計画的に取り組み、体力の向上を目指す。 ◆新体力テストに自己のめあてをもって臨ませる。 ◆体育委員会と連携し、1日1回の外遊びを推奨する。また、雨天時に輪番制で体育館の開放を行う。 ◆ホームページ・各種便りで、学校の取組を積極的に知らせる。 						
			教職員	学校は、新体力テスト等の結果を踏まえ、体育科や縦割り班活動などで、体力及び身体機能の向上を図っている。												100%	17%	83%	0%	0%	3.2
			児童	あなたは、自分の体力に関心をもち、学校や家庭で、進んで体を動かして体力を高めようとしていますか。																	
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	豊かな心の育成	6	保護者	学校は、いじめ・不登校等、保護者の相談に真摯に対応し、問題の解決に努力している。	A	91%	39%	53%	7%	1%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 児童や保護者からの相談事については、学級担任を中心に迅速かつ丁寧に対応してきた。いじめを許さないという意識の育成について、教職員は100%であるが、児童、保護者の意識はそれよりも下回っている。 アンケートの「困ったときに相談できる相手がいるか。」について、41名の児童が「いない。」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆来年度も毎月「くぼたっこのアンケート」を行う。気になる回答をした児童には、必ず個別の声掛けを行うことで、児童の困り感をつかみ早期対応していく。また、学期に1回は学級的全児童との相談タイムを行う。 ◆自分から相談できにくい児童には、普段から教師が積極的に声掛けを行い、相談しやすい雰囲気づくりに努める。 								
			教職員	学校は、いじめや差別を許さない意識や、正しいと思うことを勇気を出して行う児童を育てている。			100%	75%	25%	0%	0%					3.8					
			児童	あなたは、学校や学級で安心して楽しく過ごさせていますか。													96%	73%	23%	3%	1%
		7	保護者		A	97%	67%	30%	3%	0%	3.6										
			教職員																		
			児童	あなたは、いじめや差別を許さない気持ちを強くもち、正しいことを行っていますか。																	
学校は「学校の決まり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導を行っている。	8	保護者	お子さんは、安心して学校に通い、楽しく学校生活が送れている。	A	93%	61%	32%	7%	0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の決まり」について、教職員、児童に比べ、保護者の肯定率が若干低い。教職員、児童と保護者で少し認識が異なっているおそれがある。 決まりについて、理解や納得ができていない児童が若干名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆来年度も教職員、児童、保護者の三者で校則検討委員会を開き、学校の決まりについて、児童が主体的に見直した内容を基に、よりよい「学校の決まり」になるよう改善していく。 ◆児童に学校生活における課題に着目させ、毎月の生活目標を考えさせることで、自分たちが決めた目標を守っていかうとする意欲を高め、自己指導力を育成していく。 									
		教職員	学校は、児童と共に決まりや約束などの見直しを行い、自らよりよい学校をつくっていかうとする意識や態度を育てている。										100%	80%	20%	0%	0%	3.8			
		児童	あなたは、学校や学級の決まりや約束を大切に、よりよい学校にしたいと頑張っていますか。																95%	67%	28%
学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	キャリア教育	9	保護者	お子さんは、自分の夢や目標をもち、それに向かって希望をもって生活している。	B	73%	21%	52%	24%	3%			2.9	<ul style="list-style-type: none"> おおむねの児童が夢や目標をもち、それに向けて生活していると感じているが、学校の取組をはじめ、児童の様子や学校の取組が伝わっていない保護者も多い。認識のずれがあることも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学年に応じたキャリア教育の視点に立った実践を続ける。 ◆学年の授業実践やお手伝い、挨拶、係・当番活動などもキャリア教育の一環であることなどをホームページや各種便りで発信し、保護者の方への啓発を行う。 ◆キャリアパスポートを持ち帰り、児童の夢や目標を知っていただく機会を学期毎にもつ。 						
		教職員	学校は、将来の夢や生き方について希望をもって考える児童を育てている。	100%			40%	60%	0%	0%			3.4								
		児童	あなたは、夢や目標をもち、それに向かって努力していますか。													95%	68%	27%	4%	1%	3.6
学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	10	保護者	学校は、交通安全やけが防止等の適切な指導を行い、事故防止と安全な環境づくりに努めている。	A	97%	55%	42%	3%	0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 児童に対する交通安全やけが等の防止についての指導は、概ね適切に行われており、保護者・児童・教職員共に肯定的な評価となっている。 学校外での自転車走行時のヘルメット着用率が低い。 定期的に通学班長会を行い、登下校の様子について振り返りを行ってきた。登校時のトラブルは若干程度だったが、下校時は1列で歩くなどの自らの安全を守るための交通ルールが守れていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆町別児童会や学校だよりでヘルメット着用を児童・保護者に呼び掛け、更に意識が高まるよう、継続して指導していく。 ◆自分たちで安全に下校できるよう、呼び掛けや見守りを継続していく。特に学年下校の際には、下校直前の声掛けを継続して行う。 									
		教職員	学校は、交通安全やけが防止等の適切な指導・対応を行い、安全な環境づくりと自分を守る力の育成ができています。										100%			65%	35%	0%	0%	3.7	
		児童	あなたは、事故やけがのないよう危険を予測し、自分と周りの人の命と安全を守って生活できていますか。																		96%

